風土記の丘の花だより112

今、そしてこれから見られる植物（2021年11月27日）

来週はもう師走、せわしなくなってきました。そして、急に冷え込んできました。１週間ぶりに出勤すると、ケヤキの葉がずいぶん少なくなっていました。枝が付いたケヤキの落ち葉を見ると、小さな粒が付いていることがあります。それはケヤキの種子です。ケヤキの種子は小さいので、そのままだとポトリと下に落ちるだけです。それでケヤキは小さな枝葉を付けて種子を飛ばします。遠くまで風に飛ばされ、仲間を増やすという工夫を凝らしているのです。

資料館の東の坂を上って行くと、左に色づいた大きな木があります。カエデの仲間のハナノキです。この木は分布が限られていて、風土記のものは植えられたものと思います。春の花の頃も美しく、「花の木」の名前は、その花が赤くて美しいから付けられたと言われます。でも、今の時期の紅葉も負けず劣らずきれいです。風土記の丘のカエデ類がきれいになってきました。でも万葉植物園のカエデが見られないのが残念ですね。

トウネズミモチの木に黒い実が鈴なりになっています。在来のネズミモチより、葉も実も大きく、実の数も多いです。明治時代に中国から入ってきたので「唐」と付いていますが、今では公園や、街路樹、中央分離帯などによく植えられています。ネズミモチの名前は実がネズミの糞に似ていることから名付けられましたと言われますが、それほど似ていませんね。

トウネズミモチと同じモクセイ科のヒイラギに白い花が咲いています。修復古墳のヤドリギの下に５本植えられていますが、雌雄異株で、西の３本が雌株、東の２本が雄株です。もちろん花は雌株に付きます。去年も紹介した記憶がありますが、今年は少し花が多いように思います。ヒイラギは木偏に冬「柊」、さすがに今の季節に似合う花ですね。　　松下